

漢子力

豊島区立 目白小学校 4年1組 大橋祐仁

# 目次

はじめに	1
1. 漢字のれきし	2
2. 漢字の種類	4
3. 日本のことばと漢字	11
4. 西洋のことばと漢字	21
5. 漢字の未来	32
おわりに	33
資料	34

# はじめに

ぼくが漢字について調べようと思ったのは、漢字が苦手だからです。漢字テストでは、ついまちがえてしまうことが多いです。でも、ぼくたちは卒業までに漢字を1006文字もおぼえなくてはならないそうです。

学校で部首のことを習って、少し漢字をおもしろいと思うようになりました。そして、漢字を苦手でいるよりも、好きになった方がいいのではないかと考えました。漢字のよいところやパワーなどを見つけたいと思います。

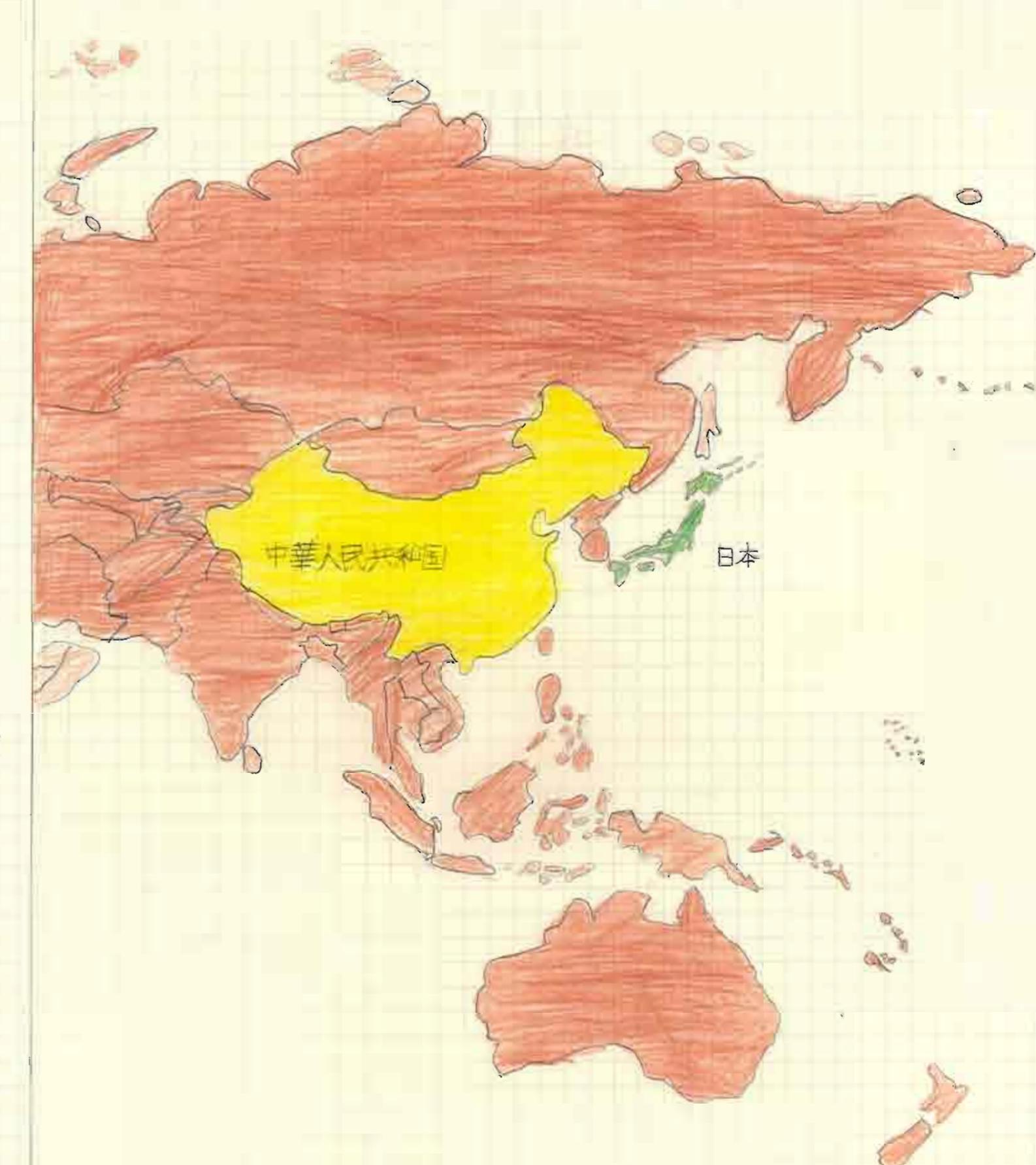
# 1. 漢字の歴史

まず、漢字の歴史を知るために図書館で本を  
ひつけて読みました。『漢字はこうして生まれた!』や  
『白川静博士の漢字の世界へ』です。

漢字の一番古いそ先は、3000年以前の  
中国の「甲骨文字と金文」とよばれるものです。  
「甲骨文字」は力Xのおなかの甲らや動物のけんこう骨  
にきざまれた文字のことです。「金文」は、青銅器に  
記された文字です。

漢字が中国から日本に伝わってきたのは、西暦  
300年ごろと言われています。日本語を表すために  
漢字の音を利用して、万葉仮名(形は漢字のままで、  
仮名のように読むもの)が作されました。平安時代  
(794年~1192年)には、漢字をもとにしてひら仮名や  
かた仮名が作されました。

今、ほくたちが使っている日本語には、漢字と  
仮名の両方がまざっています。



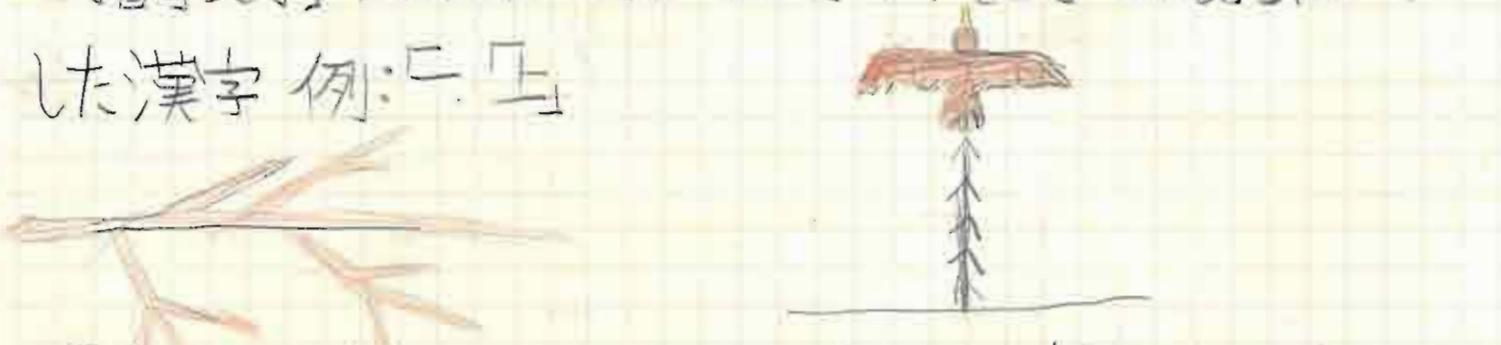
## 2. 漢字の種類

色々な本の中で、漢字は成り立ちから「象形文字」「指事文字」「会意文字」「形声文字」の4つに分けられています。

- ・「象形文字」：物の形をえかいた漢字。例：山、川



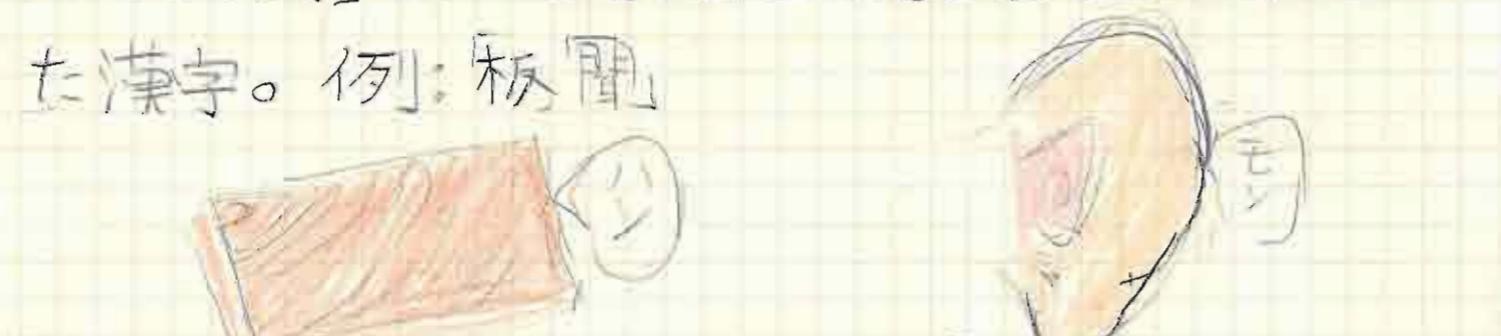
- ・「指事文字」：形を表せないものを印や記号的にあらわした漢字。例：二、上



- ・「会意文字」：二つ以上の文字の意味を合わせた漢字。例：鳴、休



- ・「形声文字」：意味を表す部分と音を表す部分を合わせた漢字。例：板、聞



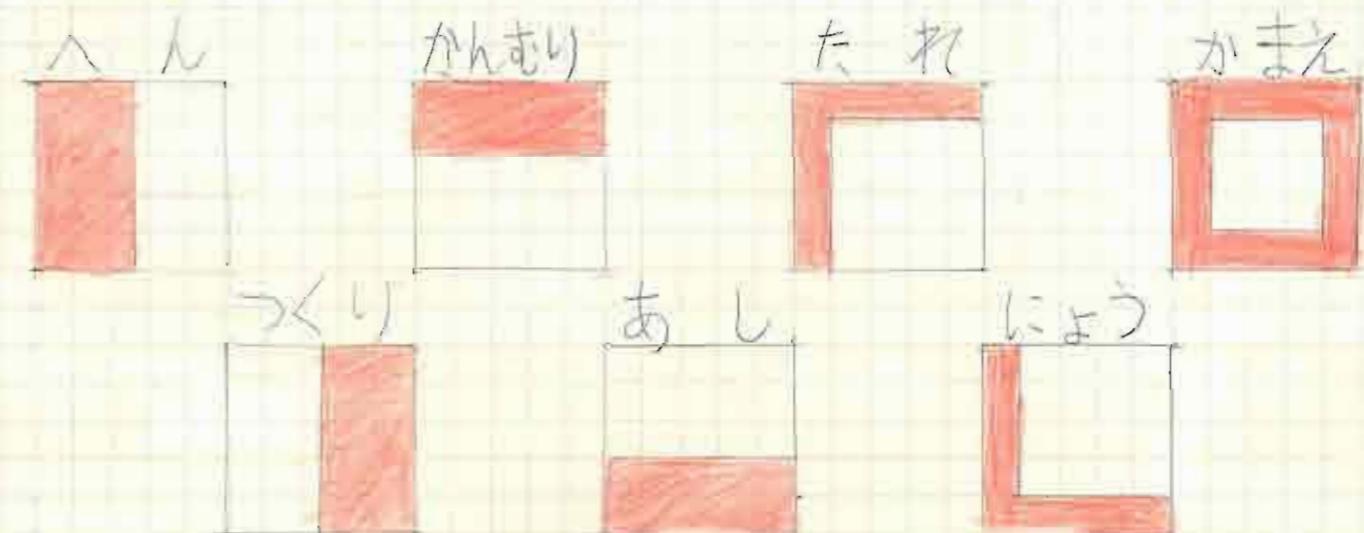
学校では、学年が上がるほど「象形文字」「指事文字」よりも「会意文字」「形声文字」を習うことが多くなってきました。

漢字のことを調べるときは、漢和辞典を使います。

辞典の最初のところには、漢字は前のページの4種類ではなくもっと細かく分類されているのかわかります。部首によって分けられているからです。

漢字はこうして生まれた！を読むと、一つ部首が分類されたかわかります。西暦100年の、中国の『説文解字』という辞典では、900あまりの漢字を部首によって540に分類しています。その後の明の時代(1368～1644年)の辞典で部首は214に整理され、これが今日本で多くの漢和辞典で使われているのです。

214の部首は「へん」「つくり」「かんすり」「あし」「たれ」「よう」「かまん」という7種類に分かれています。



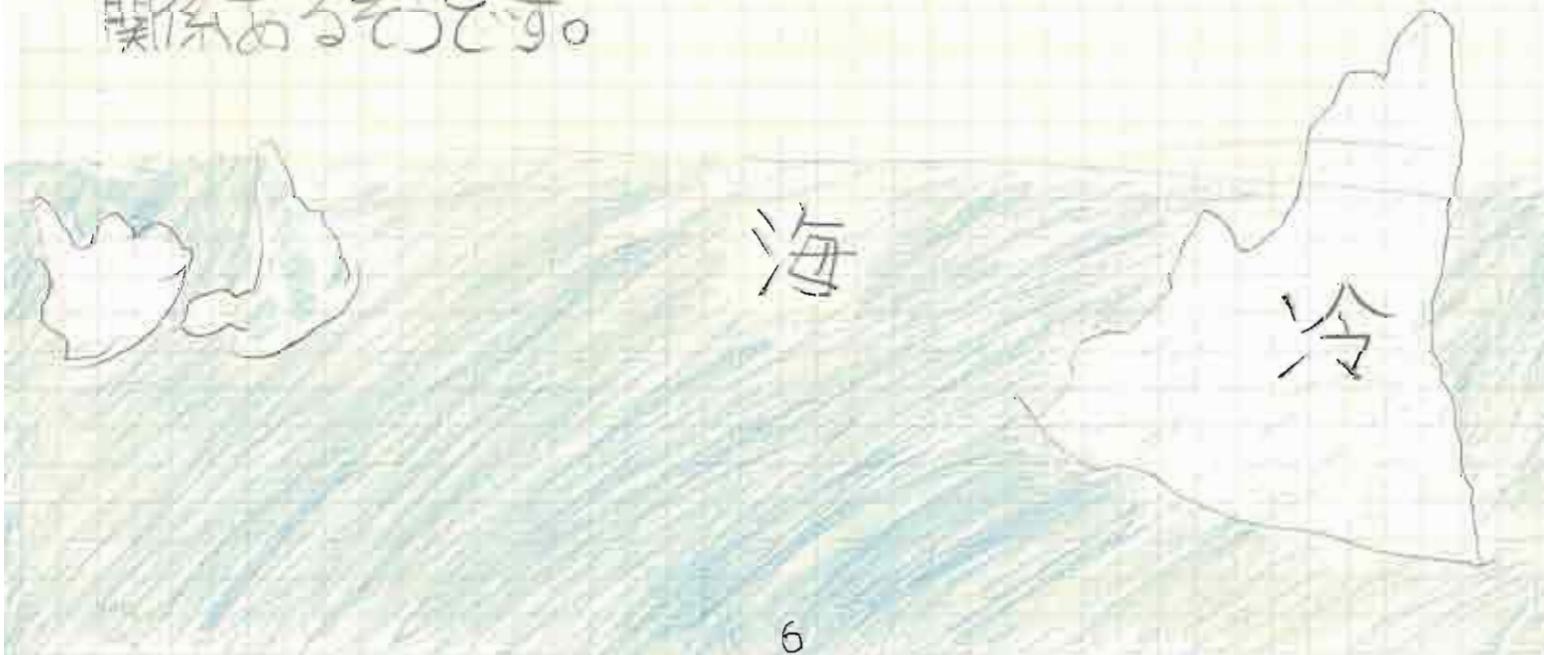
会意文字形声文字には部首がふくまれています。部首は象形文字と指事文字からきていているのが多いと思います。

## 音階その1——「へん」

「へん」はとても種類が多く、全部の漢字の半分以上に「へん」がふくまれています。小学校で習う中で多いのは「きんすい(氵)」「にんべん(冫)」「へん(扌)」「しんべん(冂)」「きへん(讠)」「へん(糸)」などです。

「へん」は種類が多くて、けっこうまきらわしいと思します。例えば、ぼくは、「にんべん」と「きよしにんべん」の区別がわかりませんでした。『図解 部首かわかる字源事典』などを見ると、「にんべん」は人に関係があり、「きよしにんべん」は道や歩くことに関係あるとわかりました。似ているけれど、意味はたいがいちがいます。

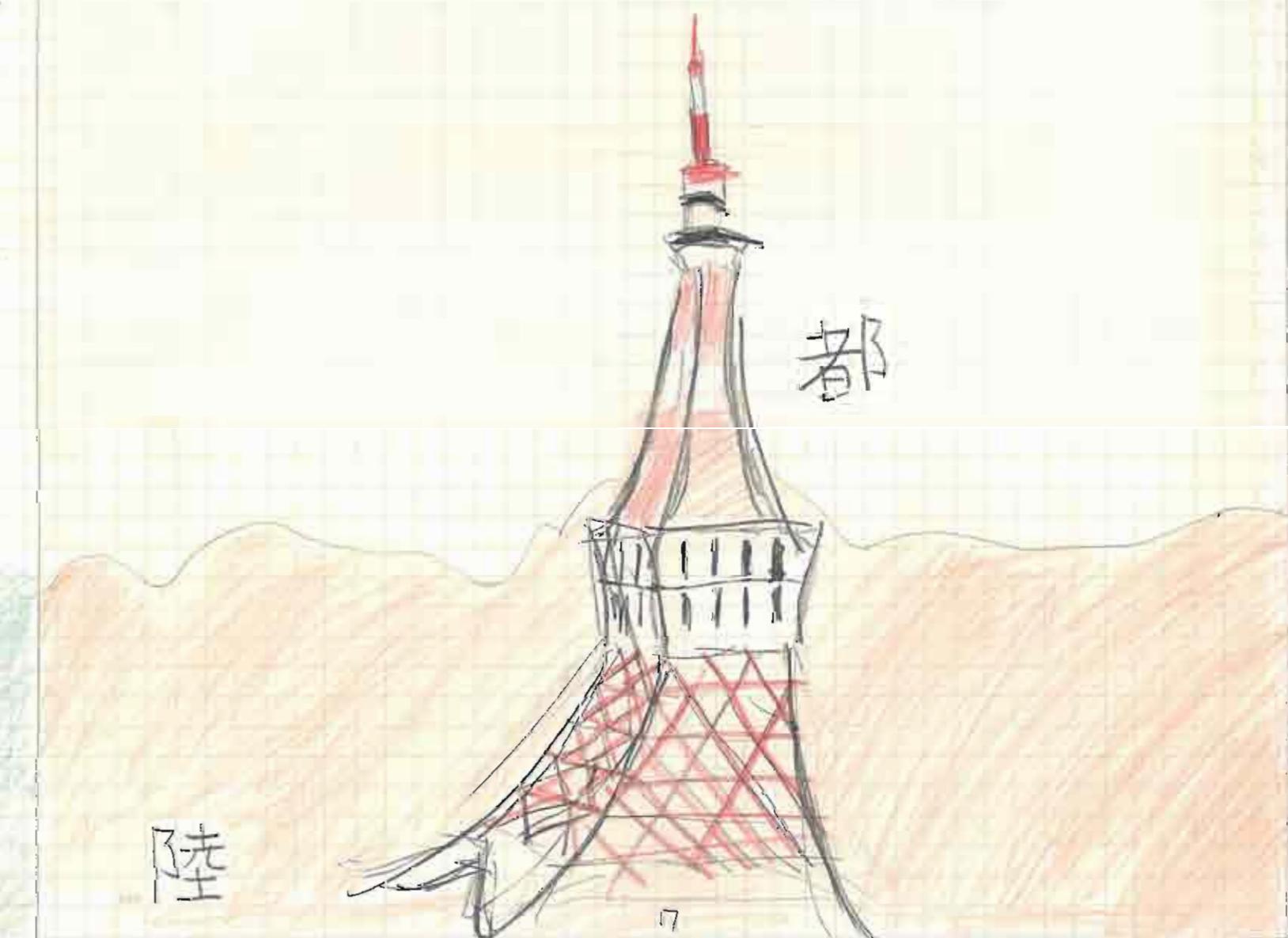
それから、「きんすい」と「にすい」のちがいもよくわかりませんでした。調べてみると、「きんすい」は水、「にすい」は氷に関係あるそうです。



## 部首その2——「つくり」

「つくり」には、「りつどう(匚)」「あおがい(頁)」「ほくづくり(又)」「ちから(力)」「あおざと(冂)」「あくひ(欠)」などがあります。

ぼくは「あおざと」と「さとへん」のちがいに興味があるので調べてみました。このふたつは、形がそっくりです。「あおざとのもとは、匱」という字です。これは「むら」を表すのです。でも「さとへん」は「むら」の意味にはなりません。「さとへん」は「壇」という字からでき正在して、「ほか」を表します。



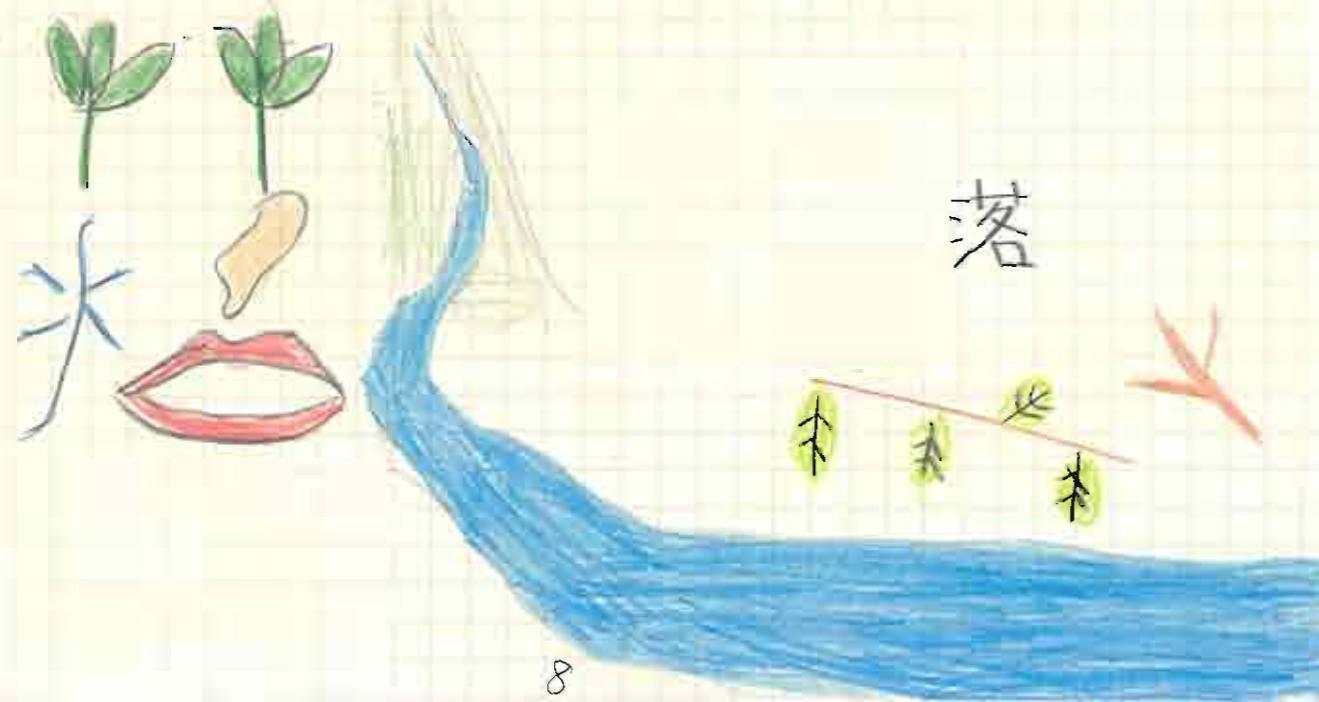
## 部首その3——「かんむり」

「かんむり」には「さかんむり」、「うかんむり」、「たけかんむり」などがあります  
「あめかんむり」、「ひとやねい」、「あみかじら」などもあります。

ぼくが「かんむり」の中で一番意外だったのは、「ゆべふた」に意味がないことです。ほとんどの部首には意味があるのに、「宀」には共通の意味はないのです。

それから、「あなかんむり」も意外でした。前に学校で教えてもらったのですが、「宀」という字は「あなかんむり」です。ぽっかり穴のあいた感じを表すのです。ぼくは「さかんむり」で「屋根」のイメージなのだとthoughtいました。

あと、「落」という字がどうして「かんむり」なのかわからませんでした。漢字辞典で調べると、葉が川に落ちて流れるというイメージでした。けつこう深いと思いました。

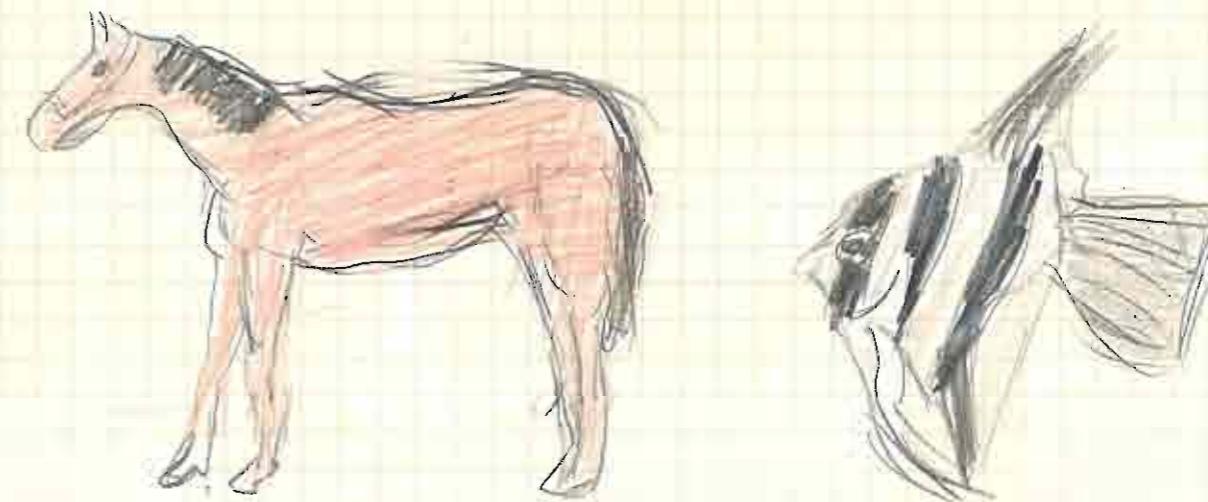


## 部首その4——「あし」

「あし」には、「こころい」、「したこころい」、「れんか」と「さら(四)」、「ひとあしい」、「かし(貝)」などがあります。

ぼくは、特に「れんか」について考えてみました。私が下から火にくべるという意味があります。「れんか」が部首の字は「馬」「鳥」「魚」などです。

「馬」「鳥」「魚」は「れんか」にそっくりの形のものがついていますか、「れんか」ではないそうです。3つとも象形字で動物の形からできた字です。「れんか」みたいな形のところは「あしやしほやひれ」を表しています。



## 部首その5——「矢

「矢」には、「かんたれ(口)」「やまいたれ(广)」「かばね(匚)」「またれ(匚)」などがあります。

## 部首その6——「弓

「弓」には、「しんにょう(弓)」「かんにょう(弓)」「えんにょう(弓)」「そにょう(走)」などがあります。

## 部首その7——「かまえ

「かまえ」には、「もんかまえ(門)」「くにかまえ(匱)」「はこかまえ(匱)」「つみかまえ(匱)」などがあります。

ぼくがおもしろいと思ったのは、「きょうかまえ」の存在です。「街」「行」の部首は「きょうにんべん」ではなく、「きょうかまえ(匱)」といつものたうそうです。

### 3. 日本のことばと漢字

漢字はもともと中国から借りたものですが、日本に入ってきてから、どんどん変化していきました。

日本の文書という本に、わかりやすくあります

(P. 24, 36)  
ます、読み方です。漢字が入ってきたころには、

日本でも中国と同じ読み方をしていました。これを「音読み」といいます。でも、その後数百年の間に、日本人

は、漢字を自分たちの言葉に合わせて読むようになりました。これを訓読みといいます。たとえば、精

の音読みは「きょう」、訓読みは「はし」です。

また、今の日本語の中には、日本人が作った漢字もあって、「国字」と呼ばれています。奈良時代(710-784)には、日本だけの新しい漢字が作られはじめたのです。国字のほとんどには音読みではなく、訓読みだけです。



新井白石の跡  
(渋谷区、さつえい大橋ねむね)

国字が作られてから1000年くらい後、新井白石という学者が『同文通考』(1760年出版)という本を書いて、8の国字について説明しました。豊島区立中央図書館にあったので借りましたか……

凡例
一 我朝ニ用フル所ノ漢字字體自正キト訓義同シキトハ論スルニ及ハス其餘國字訓借用誤用訛字省字等今コニ收メ載セヌ
一 國字トイフハ本朝ニテ造レルトヨロニテ異朝ノ字書ニ見ヘヌヲトイフ故ニ其訓ノミアリテ其音ハナシ一國訓トイフハ漢字ノ中本朝ニテ用ヒ來レル義訓彼國ノ字書ニ見ヘン所ニ異ナルアリ今コレヲ定メテ國訓トイフ也
一 借用トイフハ我朝ノ俗凡ニ文字ノ點畫多キヲハ或ハ其文字ノ音或ハ其文字ノ訓相近キノ字ノ點畫スクナキヲ取テ借用フルトイフナリ
一 誤用トイフハ文字ノ形相似タルカニヘニ誤リウツ

同文通考卷之四
新井筑後守源公白石先生著
新井白石祐登補校
一 誤字トイフハ俗書ノ中アヤマリ用フルトヨロ正字ニアラサルトイフ異朝ノ書ニハ俗訛トイフモノコレトハ論スルニ及ハス其餘國字訓借用誤用訛字省字等今コニ收メ載セヌ
一 我朝ニ用フル所ノ漢字字體自正キト訓義同シキトハ論スルニ及ハス其餘國字訓借用誤用訛字省字等今コニ收メ載セヌ
一 國字トイフハ本朝ニテ造レルトヨロニテ異朝ノ字書ニ見ヘヌヲトイフ故ニ其訓ノミアリテ其音ハナシ一國訓トイフハ漢字ノ中本朝ニテ用ヒ來レル義訓彼國ノ字書ニ見ヘン所ニ異ナルアリ今コレヲ定メテ國訓トイフ也
一 借用トイフハ我朝ノ俗凡ニ文字ノ點畫多キヲハ或ハ其文字ノ音或ハ其文字ノ訓相近キノ字ノ點畫スクナキヲ取テ借用フルトイフナリ
一 誤用トイフハ文字ノ形相似タルカニヘニ誤リウツ

○ 国字		
本朝文字白姓年間舊臣奉勅所撰新字四十四卷其書此焉俗間所用亦有漢人字書所不載者二蓋是國字世盤繁ノ以之爲證非通論也今定以爲國字		
峠 風 風 勵 悌 嶺色嶺高山之可避而過者也 風止也 風落木也	一 字ヲ註スルニ其義通ズルヲ得タキガタメナリ 一則元本此釋ノ外ノ音メニテ今存者也 ミヲ收メ錄ス行草ノ字體ノコトキハ眞書ノ例ニヨリテ推求ムヘシ	也接樹亦說文彌中有一道可也注水之器也 呼注水器謂飯銚者蓋半拂之物也
一 字ヲ註スルニ其義通ズルヲ得タキガタメナリ 一則元本此釋ノ外ノ音メニテ今存者也 ミヲ收メ錄ス行草ノ字體ノコトキハ眞書ノ例ニヨリテ推求ムヘシ	也接樹亦說文彌中有一道可也注水之器也 呼注水器謂飯銚者蓋半拂之物也	
也接樹亦說文彌中有一道可也注水之器也 呼注水器謂飯銚者蓋半拂之物也		

この本はむずかしそうで、ぼくには読みません。でもどんな漢字が国字なのかは、わかりました。いくつかの字について、どうして日本で新しくられたのか、ぼくなりに考えてみました。

## 国字その1——嶠

この字はよく見ますが、まだ習っていません。小学校で習う1006文字には入っていないので、多分中学校で習うのだろうと思します。続・楽しい漢字教室という漢和辞典にのっていました。

嶠という文字は、山・上・下を組み合わせた会意文字です。山を上で行って上りつめ、下りに向かう所という意味で「道の頂上」のことを表しています。

この字は日本人にはないものあるものだと思います。「嶠」とか「峠の茶屋」ということは、小学生のぼくでも聞いたことがあります。『日本の自然環境と暮らしを調べよう』<sup>(P.8-9)</sup>という本に書いてあることですが、日本の自然の特色は、山なみや深い谷です。また、『地図と絵で見る世界の地形・気候』<sup>(P.2-3)</sup>を読むと、日本列島の国土の大部分が山地だということとかわかります。ぼくたちが旅行をするときは新幹線や車でトンネルをくぐって山の向こうに行くことができます。でも、トンネルがなかったむかしは、人は歩いて山を越していくしかなければなりません。嶠という字は山の多い日本では必要で、漢字一文字で表すと便利だったのだと思します。

でも、ここでひとつ質問がありました。日本には山が多いのですが、世界地図で見ると、中国も山が多そうですね。(カラーの地図の茶色くね、ある場所が古いからそう思いました。) ぼくは中国に行ったことがないし、学校でも中国のこと習っていません。だから、また、図書館に行って、中国について書いてある子どもの本をさがしました。

『年表でたどる中国の歴史第1巻』<sup>(P.10)</sup>という本には、中国のむかしの文明のことが書いてありました。漢字の祖先ができた時代は、殷王朝という王朝の時でした。その時の国のはじめは、黄河という川の中流から下流にかけてのところです。ここは大きな川が流れている平たい土地ですから、日本とはあまり似ていません。

だから、ぼくの考えは、漢字を作るときに中心になら、中国人たちは、あまり山をこえたりすることではなくて、嶠という字を作ろうとは思わなかた、ということです。



## 国字その2 —— 烟

この字はもう学校で習いました。物語の本の中にも、よく出てくる漢字です。この字がもともとなかったのはけっこう意外でした。

「烟」は「火」と「田」を合わせた会意文字です。『楽しい漢字教室』という漢和辞典で調べてみると、「あれた野や山の木ややぶに“火”をつけ、もやして作った“はだけ”のことをあらわした字です」と書いてあります。「田」は水田で、お米を作ることですが、「烟」はかわいじいて、その他もの（野菜や花）を作るところです。

お米は日本の主食ですから、日本人にとっては特別な食べ物です。野菜や果物大切ですか、それとは区別すると思います。だから「田」とは別の意味の「烟」という漢字が役に立つと思った人がいたのだと思ひます。

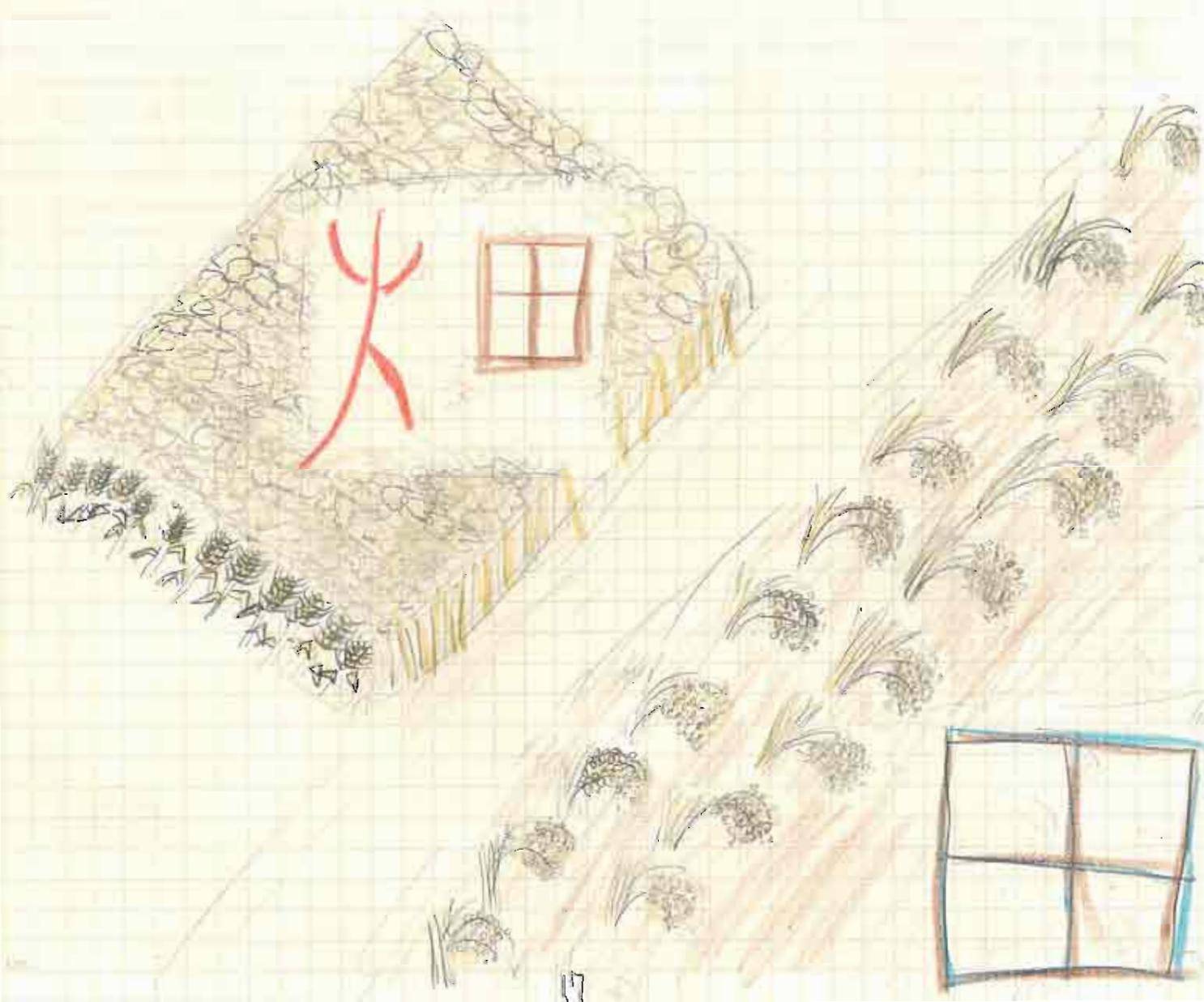
でも、今回も「疋」の時と同じき問がわいてきました。ほくのイメージとしては、中国でもお米を主食にしている感じがしたからです。チャーハンは有名です。なのに、中国には「烟」を文字で表す漢字はなくて「田」という字をお米にも野菜にも使っているらしいです。そこでまた中国について本で調べることにしました。

『国際理解解説NHK地球たべもの大百科』中国 (P.11)  
という本があるのですが、その中に、この物のことが書いてありました。中国には「小麦南稻」ということはあるそうです。ベイハイナタオと読みます。この意味は、北では小麦を食べて、東ではお米を食べる、ということです。中国はお米も小麦も生産量世界第一位です。南の地方では、雨が多くふって、温かく、稻がよく育ちます。北の地方では、雨があまりふらないし、冬がとても寒いので、稻がうまく育ちません。だから、北部では小麦を育て、小麦粉で作ったものを主に食べます。たとえば、ラーメン、キョウサ、小麦粉のおかゆ、クープのようにうすくやした小麦粉、パンにしているマントウやパオズなどです。

「疋」について調べた時に、漢字の祖先は中国の北部でいたことを知りました。もと今回もこのことに関係あると思ひます。中国の北の地方では、水田とかわいた「烟」を区別することは考えなかたと思います。でも、日本ではお米が主食だから、「田」という字をお米せん用にしたのだと思ひます。

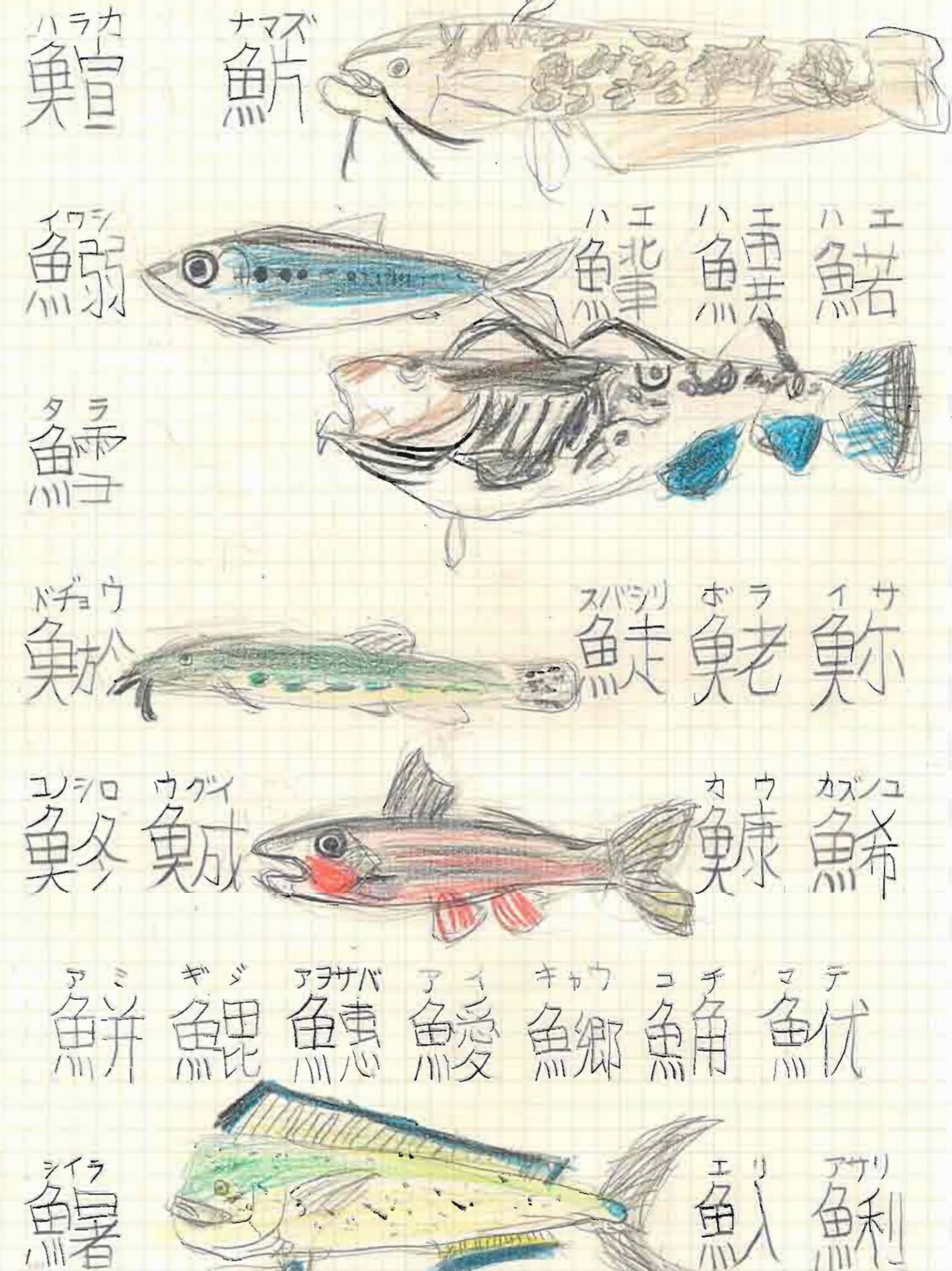
あと、もう一つずつ理したことがあります。それは、むかしの「年貢米」と関係があります。むかしはお米は、お金のかわりになることができました。

「年貢米」のことは何となく知っていたので『日本の歴史10  
農民・町民とその文化 江戸時代2』<sup>(P90)</sup>という本の関係  
のあるところを読んでみました。江戸幕府は田んぼを  
持っている農民に年貢(今の税金みたいなもの)としてお米を  
おさめさせていましたか、畠については、作物そのもの  
ではなくて、お金でおさめさせることもあったそうです。  
だから、お殿様が帳簿をつけていたとしたら、「田」と「畠」  
は別々の漢字を使つたかたと思します。



## 国字その3——魚をふくむ字

『同文通考』に書いてある81文字の国字の中には「魚」の漢字が25文字もはいっています。日本は中国とは違って海に囲まれた島国です。日本人はお魚が大好きです。調べて学ぶ日本の衣食住日本人は何を食べてきたかを読むと、日本人は弥生時代からあみを使って漁をしていたことがわかります。『地図で見る日本の歴史⑤ 安土桃山・江戸時代【前期】』のQ&Aコーナーには、<sup>(P.68)</sup>「日本橋の魚河岸はいつごろはじめたの」という質問があるています。答えを読むと、徳川家康が江戸に来た時(1603年)からそうです。家康は、大阪の漁師さんたちを江戸に連れてきて、自由に魚をたらました。漁師さんは、魚を毎日家康のところに持っていましたが、残りを日本橋で売っていたのです。ぼくたちはお肉も大好きですが、日本の食文化③ 時代ごとに調査しようを読むと、日本人が肉を食べ始めたのは明治時代(1868~1912)だということがわかります。だから、それまではお魚が一番のごちそうだったのだと思います。



## 国字その4——木・鳥をふくむ字

うおへんの漢字よりも少ないですが、木・鳥をふくむ漢字も多いです。木へんの漢字は10文字あります。鳥を含む字は8文字です。これはきっと、日本には中国とはちから木が多く生えていたり、中国とはちから鳥がたくさん生息していたからなのだと思います。

木山

桟

柏

木草

柏木

桺

柘

桃花

木正

柏



鶴

鳥

鶴

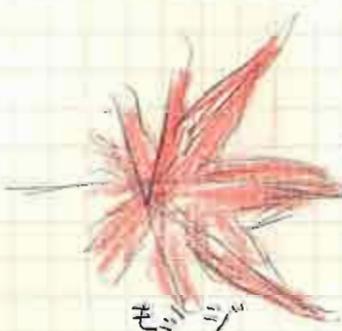
鶴

鶴

鶴

鶴

鶴



## 4. 西洋のことばと漢字

国字についてもっと調べてみたら、新井白石が「同文通考」を書いた後にも、たくさんの字が日本で作られたことがわかりました。例えば、「日本の文字」には「米毛」という字のことが書いてあります。これは長さを表す「ミリメートル」のことです。明治時代に、中央気象台というところ(今の気象庁)で作られた字です。毛以外でも、糸(センチメートル) 粒(キロメートル)などがあります。「米」を「メートル」と読むことに決めて、米丈の字が作られたようです。

日本人が「米毛(ミリメートル)」という字を作った理由は、明治時代に今まで知らなかつたことはか日本に入ってきたからです。それは明治維新ということと関係があります。明治維新の前までは、日本は長い間鎖国していました。鎖国といふのは、外国とつきあわないことで、1639年に江戸幕府3代目将軍の徳川家光がポルトガル船の入港を禁止して始めました。ところが、1853年にマシューC・ペリーの黒船がやってきました。

そして、1854年に日米和親条約が結ばれて、鎖国は終わりました。鎖国が終わって、江戸幕府がたおされてたくさんの中国人、外国の物、外国の考え方などが日本に入ってきた。江戸時代には日本人は長さを「足」、「雪」という単位で表しましたが、明治になって新しい「メートル」や「キロメートル」なども使うようになりました。



明治維新には興味があるので、もと本をさかしてみました。そしたら、新しい国字が作られるだけではなくて、漢字同士を組み合わせることでたくさんの新しいことはが作られたともわかりました。この新しいことはが「新語」とよぶそうです。

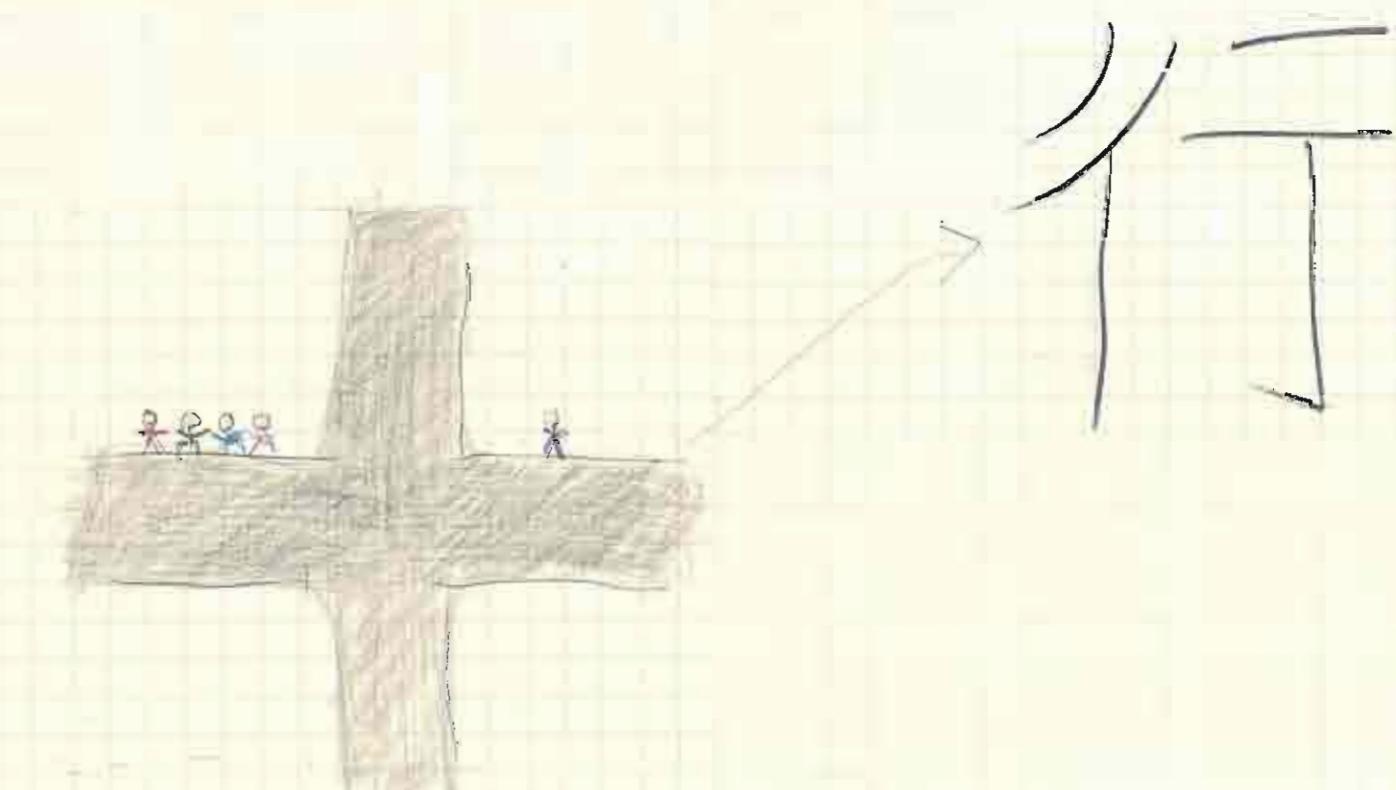
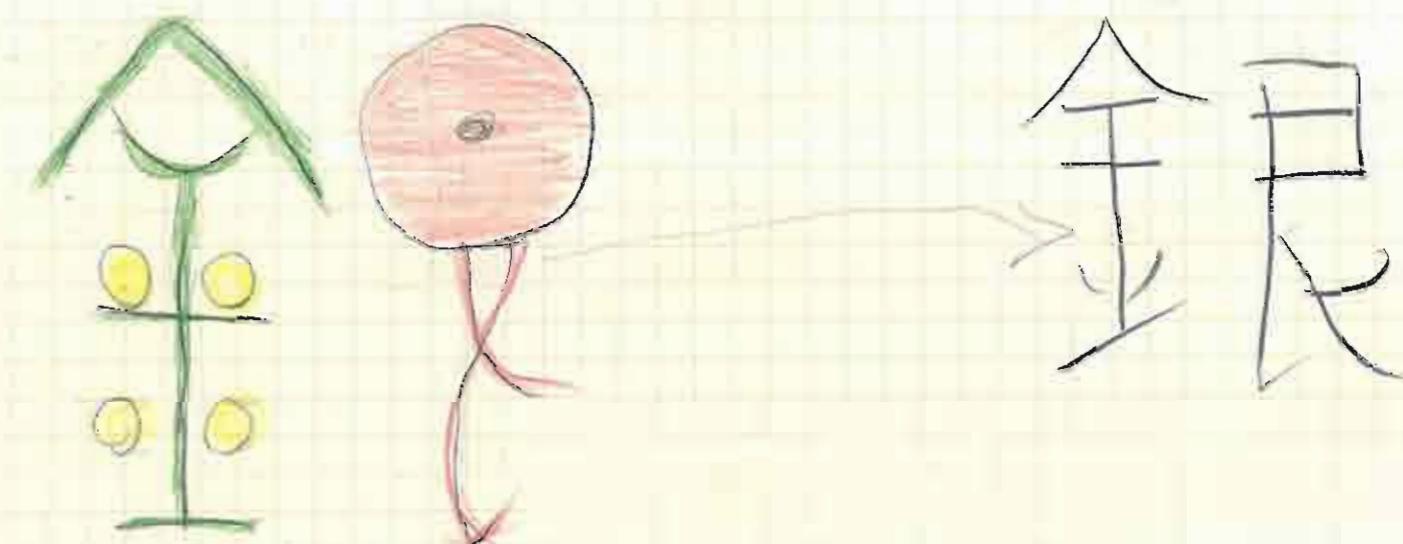
## 新語その1——銀行

生まれることは死ぬことは<sup>(甲10-18)</sup>を読むと、銀行といふことはかどうやってできたのかわかります。銀行は英語でbank(バンク)といいます。日本で初めての銀行は第一国立銀行(今みずほ銀行)で、1873年に渋沢栄一が設立しました。江戸時代には両替屋や為替屋というものがありましたから銀行とはちがうものでした。

お金と関係があるのに、どうして銀行なのかというと明治時代のお金は、銀を中心だったからです。そういえば、島根県に旅行した時に、石見銀山といふ世界遺産がありました。



銀という字を漢和辞典で調べると、「金にくらべてすこしおうちる金属」という意味だと書いてあります。「銀の右側」の部分は、太陽が西へ行けた形で落ちることを表しています。銀は、会意文字ですか、「艮」だけでも「きん」と読むので、形声文字ともいえます。行は会意文字で、人が歩く所を表したそうです。



## 新語その2——郵便

明治・大正・昭和の新語・流行語辞典を見ると、西洋のことは「かいたくさん」漢字のことばにならなかったのかわかります。郵便ということはは、1871年に政治家の前島密<sup>ひつ</sup>が考案しました。この人のことは、春に、ついで総合博物館と切手の博物館に行ったので知っていました。郵便の制度はイギリスで、ローランド・ビルという人が考案して、1840年に始まりました。前島密はイギリスに留学して、手紙に切手をはめてポストに入れる方法を知りました。送る料金は重さによって変わりますが、どこに運んでもらっても均一です。

郵便制度が始まるまでは、手紙や荷物は飛脚<sup>ひき</sup>が運んでいました。運ぶものやきりによって値段が変わるものでとても高かったそうです。郵便は国営にしたので料金を安くすることができました。



漢和辞典を見ると、郵は会意文字で、国境の手紙の中絶所のことだとあります。左半分は、花などが下がっているところがない、いわゆる国境を表しています。右のあおさとは、領地といわれている人間が組み合わさっていて、村を表します。

「便」の「へん」は横を向いた人を表します。右側はかまどを構へて火をあかすところです。それが人を助めし仕事をせるイメージで、都合がよい、といふ意味になったそうです。これも会意文字です。



## 新語その一 舞踏会

「舞踏会」は英語のdance party(ダンスパーティ)の翻訳で、1883年イタリアで作られたことばです。

1885年に「鹿鳴館」という建物が完成して、そこでは舞踏会が毎日開かれるようになりました。鹿鳴館は有名ないかの建物で、千代田区の日比谷公園の近くにありました。外務大臣の井上馨が計画立てて、イギリス人のコンドルレが設計しました。外国からのお客様をよく招いたそうです。

残念なことに、1945年の東京大空襲でやけでなく焼けてしましました。



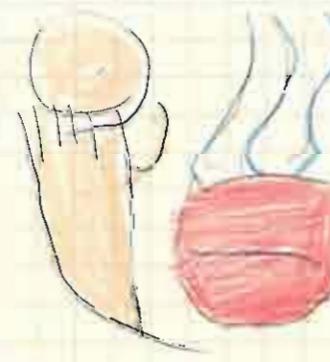
鹿鳴館  
(東京江戸博物館にも型が作成されました)

「舞」も「踏」も小学校では習わない字なので、「続  
樂い漢字教室」という手書きで調べました。

「舞」の上半分は、両手に扇りをもって踊る姿で、下半分は「亂」(わん)という部首で、両足をそろえた形です。会意文字ですが、上半分だけで「ぶ」(舞)と読めるので形声文字ともいえます。

「踏」は「廻(まわ)し」で、右側の「沓(くつわ)」は「口から水がながれ出る」という意味で、左側の「廻」は「水を撒き散らしていく」という意味です。全体で「足のおしゃべり」という意味になります。会意文字ですが、下半分だけで「とう」と読めるので、形声文字ともいえます。

「会」は2年生で習いました。上半分(人)は人が集まるところと云うことで、下半分(云)は重なり合っていることを表します。人が重なるように集まっているという意味の会意文字です。



舞

踏  
止

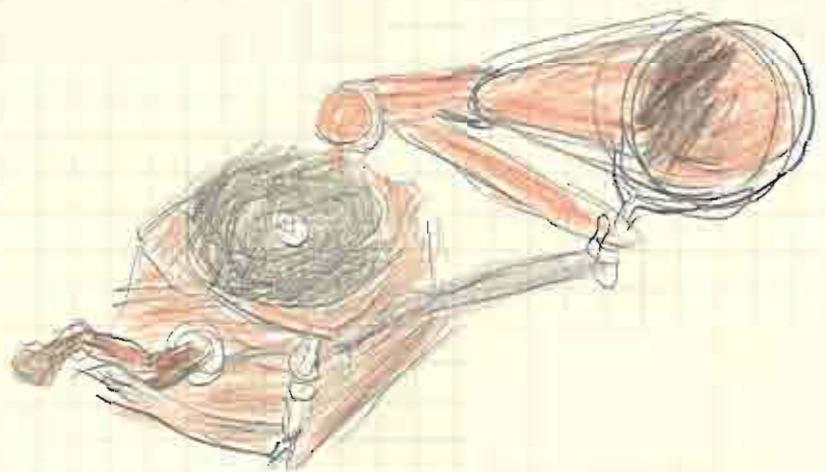
会

## 新語その4——「蓄音機」

「蓄音機」は英語の「phonograph」(フォノグラフ)の翻訳で、1892年に使われ始めたことです。この器械は、1877年にアメリカのエラソンが発明したもので、音楽などのレコードの音を出すものです。レコードの表面にみそのようなものがある、それに蓄音機の針を置いてレコードを回すと、音が出る仕組みです。

1877年に発明された蓄音機が、1892年にはもう日本に来ていたのは、けっこつ早いと思います。

今の子どもたちはあまりレコードを知らないと思います。ぼくもレコードから音が出るところを見たことはありませんが、おじいちゃんが集めていたレコードを見たことがあります。

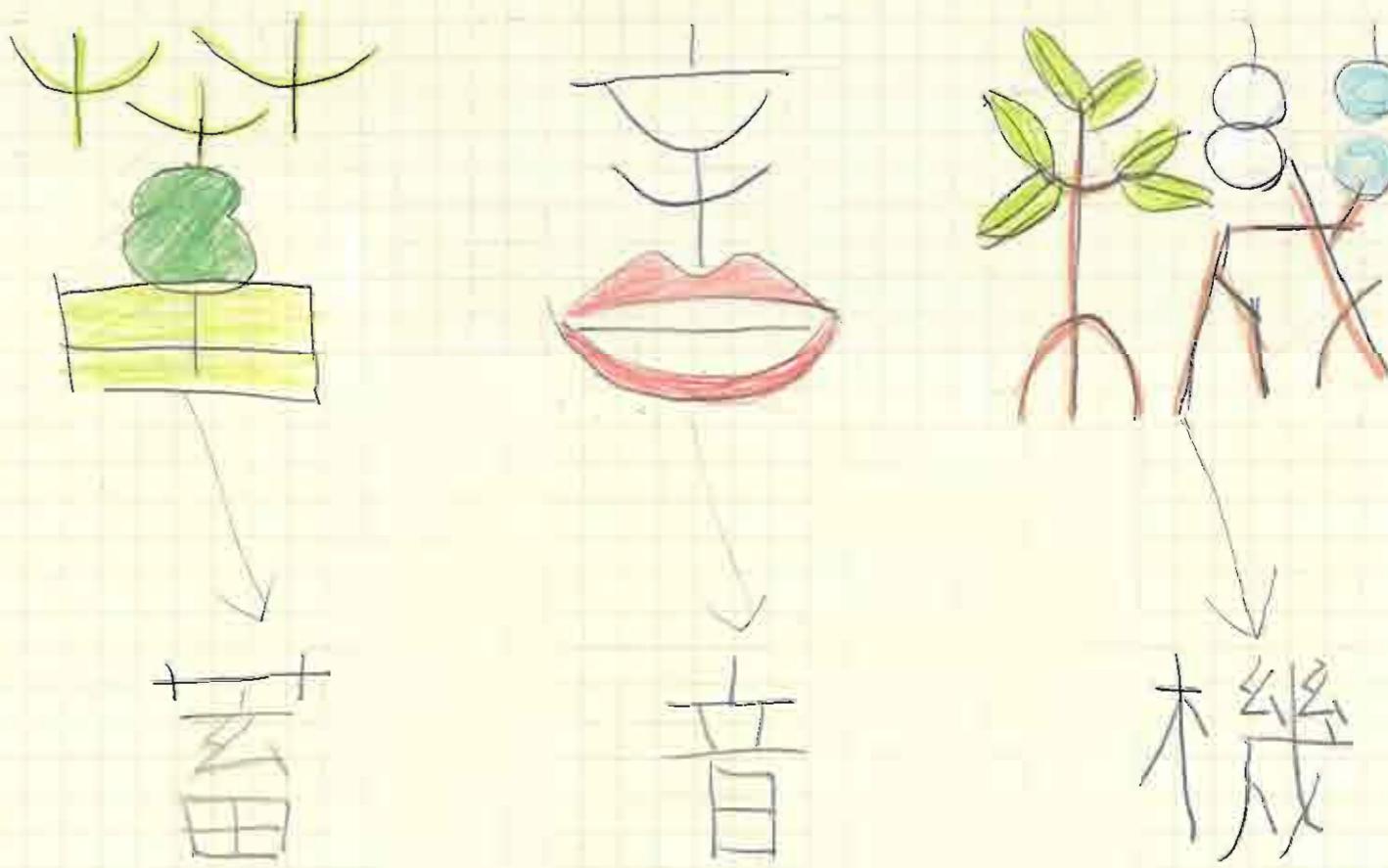


「蓄」は小学校では習わないので、また『続 楽しい

漢字教室』で調べました。「せんしゅり」の下に「たくわえる」という意味の「畜」が組み合わさっているので、会意文字です。「畜」だけで「ちく」と読めるので、形声文字ともいえます。

「音」は1年生の時に習いました。「音」という字の「口」の中に「一」を入れて、口から出でる声を表したそうです。だから、会意文字です。

「機」は4年生で習いました。「きへん」の右側に、はたおり道具を組み合わせていて、会意文字です。「機」だけでも「き」と読めるので、形声文字ともいえます。



どうして明治時代にたくさん漢字の新語ができるのか、  
ぼくなりに考えてみました。むかしの人たちは、ぼくたち  
よりも英語を知らないなか、たまです。例えば、  
今だったら「ダンスパーティ」と言った方が「舞踏会」よりも  
わかりやすいですが、むかしはちがうのだと思います。  
かた仮名とちがて漢字にはひとつひとつ意味があるのでも、舞踏会にした方が見た目でもかりやすかった  
のだと思います。

## 5. 漢字の未来

漢字は中国から来たものだけと、日本の中でも  
国字ができたし、新しい時代の新語を作るのにも  
大活躍だったことがわかりました。

これからもし、今まで発見されていなかった動物や  
植物が見つかったら、名前を付けるのに、新しい  
漢字が発明されるかもしれません。

外国から入ってくることは、今はかた仮名が  
多いです。でも、もしかしたら、そのうちに、漢字の  
ことばで表すのはやるかもしれません。

漢字にはパワーがあるから、ぼくの予想では、  
これからも進化していくと思います。

わりに

書き終わった感想は、調べて書くことは意外に時間がかかる、ということです。いろいろな種類の本を読みましたが、図書館の本を近くで借りられてとても助かりました。

漢字について、前よりも親しみかわいてきたのでよかったです。これからは、ことばにもっと興味を持って、大事に使いたいと思いました。

# 資料

著者名 西村京子 高木圭子 棚橋尚子 監修	書名 広がる! 漢字の世界① 漢字はこうして生まれた!	出版社名 光村教育	出版年 2012	図書館分類号 豊島区立上池袋図書館 811
新井重良	図解部首からわかる字源事典	木舟社	2007	豊島区立中央図書館 821.2
新井白石	新井白石全集 第四巻	国書刊行会	1977	豊島区立中央図書館 121.34
石井勲	楽しい漢字教室	きょうせい	1990	(自分の本)
	続 楽しい漢字教室	きょうせい	2002	(自分の本)
駐地家連	新社会科学学習事典② 日本の自然・環境とくらしを調べよ	国土社	2002	豊島区立中央図書館 308
桑畑美穂子	調べて学ぶ日本の衣食住 日本人は何を食べててきたか	大日本図書	1997	豊島区立中央図書館 210
島崎晋	年表でたどる中国の歴史 第一巻 大河文明と中国統一	汐文社	2007	練馬区立大泉図書館 23
下村昇	小学漢字学習辞典	偕成社	1999	(自分の本)
竹内誠 監修	地図で見る日本の歴史5 安土桃山・江戸時代(前期)	ブルーベル館	2000	豊島区立中央図書館 210

竹内由紀 監修	日本の「食」とくらし③ 時代ごとに調査しよう	学習研究社	2003	豊島区立中央図書館 596
谷川章 監修	国際理解にやくたつ NHK地球たへもの大百科1中国	ポアラ社	2000	豊島区立中央図書館 596
櫻井県教委 会議会	白川靜博士の漢字の世界へ	平凡社	2011	豊島区立上池袋図書館 821
町田清行	人物・遺産でぐる日本歴史10 農民・町民とその文化 江戸時代2	小峰書店	1998	豊島区立日吉図書館 210
町田和彦 監修	ふしき! おどろき! 文字の本① 日本の文字	ポアラ社	2011	豊島区立日吉図書館 801
山下脩二 監修	地図と絵でみる世界2 地図と絵でみる世界の地形気候	ポアラ社	1992	豊島区立千葉図書館 X2
湯浅茂雄	生まることは死ぬことは	アリス館	1997	豊島区立千葉図書館 814